

人・自然・歴史

笑顔がいい「の」「ぎ」「さ」「わ」

石川町第5次総合計画

野木沢地区まちづくり委員会報告書



平成20年 2月

野木沢地区まちづくり委員会

野木沢地区まちづくり委員会報告書

野木沢地区まちづくり委員会は、平成19年7月24日に各行政区長・同副
区長・事務局会議を開催し、その中で石川町第5次総合計画、地区まちづくり
委員会について趣旨説明を行い、組織等についてご理解とご協力をいただき、
話し合いや検討を重ねることとなりました。

報告書作成まで委員会等6回、庶務打合せ5回の会議及び打合せを重ね、
現在行われている地域事業や地域状況の把握、自然や歴史の確認・認識に努め、
「地区まちづくり」について相互理解や将来に向けた構想を話し合っておりま
した。

野木沢地区は、石川町の西北に位置し、中野・曲木・塩沢の三行政区からな
り、西は矢吹町、北は玉川村に隣接する中山間地の地区です。JR水郡線野木
沢駅、国道118号線が地区の西側を南北に走り、福島空港まで10km以内と
交通の利便にめぐまれた地域です。

地区面積は約1,065ha、その内、農地が約462ha(43%)を占めて
いますが、国営母畑農地開発事業で開拓された農地が利用されていないところ
が多く、また転作事業の休耕田等で荒廃しているところが目に付くのが現状で
す。その他、山林・原野が約365ha(34%)あり、比較的勾配の緩やかな里
山の原形が辛うじて残っています。

歴史的には石川氏の面影を残す藤田城址、曲木城址等を見ることができます。
また、県指定文化財の悪戸古墳群、町指定の曲木石造塔婆群の指定文化財もあ
り、小和清水をはじめ平安時代の女流歌人・和泉式部にまつわる地名や伝説も
多く残っております。

野木沢地区まちづくり委員会では、これらの地域現状や歴史的背景を踏まえ、
行政区ごとの部会を組織し、身近な中で前向きに検証、検討、話し合いを行っ
てきました。その結果について報告いたします。

石川町長 加納武夫様

平成20年2月20日
野木沢地区まちづくり委員会
委員長 瀬川洋幸

目 次

1. 野木沢地区まちづくり計画

- (1) 地区の概要・特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- (2) 地区の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- (3) 事業計画(構 想)・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 2
- (4) 手をつなぎ 明日の地域を興すために・・・・・・・・P 3

2. 野木沢地区まちづくり委員会組織・・・・・・・・・・P 4

3. 野木沢地区まちづくり委員会開催記録・・・・・・・・P 5

4. 野木沢地区まちづくり委員会話し合いメモ

- (1) 第1回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 6
- (2) 第2回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 7
- (3) 第3回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P10
- (4) 第4回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P14
- (5) 第5回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P16

5. 現在行われている「地域づくり事業等」取り組み状況

- (1) 中野区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P17
- (2) 曲木区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P18
- (3) 塩沢区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P20

野木沢地区まちづくり計画

地区の概要・特性

野木沢地区は中野・曲木・塩沢の三行政区で構成され、北は玉川村、西に矢吹町と隣接する石川町中心部から西北に位置し、総面積約1,065ha、世帯数810戸、人口約2,700人が暮らす中山間地域で、総面積の内、母畑国営農地開発事業で田・畑が開発されたため農地が約43.5%(462ha)を占めています。

交通状況は、JR水郡線、国道118号線が地区の西側を南北に走り、水郡線野木沢駅があり、福島空港まで10km以内と石川町内では交通状況に恵まれた地域です。

自然や歴史についても、山林原野が約365ha(34%)あり、奇山「禿山」をはじめ里山が身近に感じられます。歴史や伝説についても、県指定文化財の悪戸古墳群を始め、町指定の曲木石造塔婆群があり、また石川氏の名残を残す藤田城址、曲木城址などもあります。伝説では小和清水をはじめ平安時代の女流歌人、和泉式部に纏わる数多くの伝説や地名などが散在します。年中行事として盆踊りなどの伝承行事も行われ、住民の交流の場が残る穏やかな地区です。

地区の現状と課題

現 状

世帯数は少しずつ増加しているが、人口はわずかずつ減少傾向を示しています。転入者やアパート入居者の地域活動参加は他地域より理解されていると考えられています。人口減少や少子高齢化は地域事業への理解と協力にも、今後支障が出るものと考えられます。このような状況の中、三行政区内ではそれぞれに地域を活かした事業を展開し、明日への地域づくりに汗を流しています。

課 題

- ・ 少子高齢化が進む中で地域事業、共同作業、伝統行事等への参加減少心配
- ・ 事業等の連携・協同開催、観光客(母畑温泉客等)・訪問者の積極誘致
- ・ 各種団体役員等のリーダー不足
- ・ 将来に向けた地域事業等の運営資金の確保
- ・ 地域事業等を通じた収入源の思索(今ある物を活用・工夫できないか)
- ・ 母畑国営農地開発事業で田・畑が開発された土地の有効活用
- ・ 天然資源を活用した販売品の考案
- ・ 地区内外、町外への情報発信

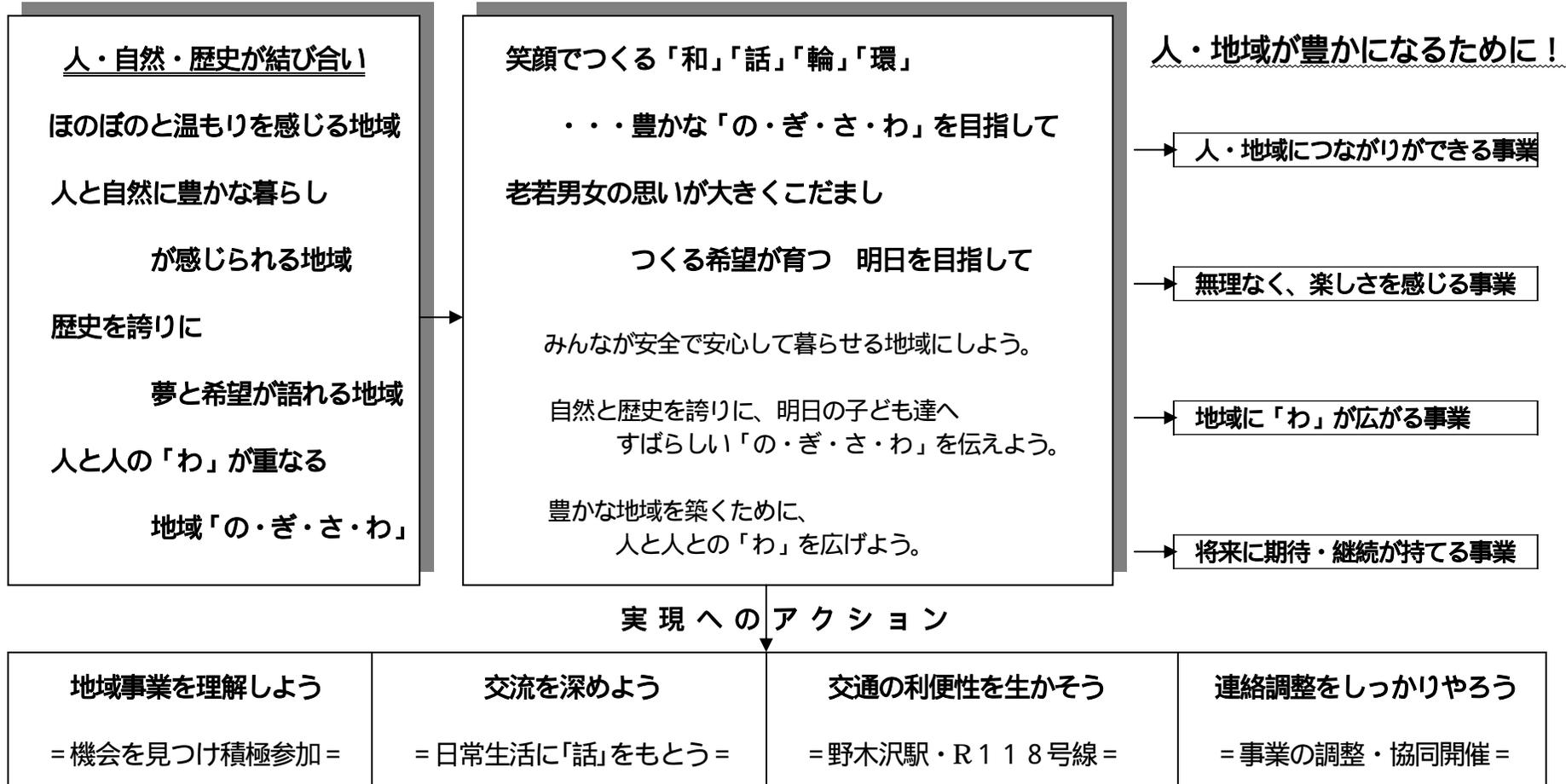
事業計画(構想)

計 画	歴史を活かした事業
目 的	地域の歴史的資産を活かした地域活動を、地域住民の意識高揚を図りながら展開し地域財産としての活用を図る
取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 藤田城跡整備・ 和泉式部の里づくり・ 県指定・町指定等の文化財、地区景勝地との地理的連携・ 史跡学習と地域づくり意識の高揚

計 画	自然を活かした事業
目 的	豊かな自然を誇れる活動を進め、人と自然が暮らしの中で潤う地域づくりを目指す
取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 禿山つつじ祭り・ 禿山の公園の再生、整備・ 秋の収穫祭・ 農地の活用を柱とした地域振興活動(中山間地等直接支払事業等)・ 母畑温泉観光客を呼び込める地域興しや産業(農業)興し事業・ 母畑国営農地開発事業で開発された土地の有効活用と特産品づくり・ 豊かな自然を活かした安全・安心な作物づくり・ 高齢者の生きがいと健康保持・増進が図られる自然を活かした環境づくり・ 野木沢駅・R118号等の交通利便性の活用

計 画	伝統を後世に伝え地域住民の交流を図る事業
目 的	地域の伝統を継承し、人と地域につながるの場と交流の機会をつくり、故郷文化の大切さを認識しながら後継者の育成を図る
取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 各地区盆踊りの継承と後継者の育成・ 各地区祭り・ 盆踊り、祭礼等に関わる設備備品等の整備・ 世代を超え相互交流ができる伝統行事等への取組み・ 地域に残る伝説や民話、年中行事、俗地名等の調査や記録・ 三地区公民館活動の継続・発展

手をつなぎ、明日の地域を興すために ・・・笑顔でつくる「の」「ぎ」「さ」「わ」



野木沢地区まちづくり委員会組織

平成19年9月26日

野木沢地区まちづくり委員会						
役職	氏名			氏名		
顧問	上村善栄	二瓶匡		中村進		
顧問	伊藤弘毅					
委員長	瀬川洋幸					
副委員長	二瓶義徳	草野一		関根功		
事務局長	宗形兼徳					
庶務	圓谷美幸	二瓶伸一		鈴木辰也		
委員	二平光信	宇佐美喜和		中村弘		
委員		岩谷共利		関根正明		
部会	中野区部会		曲木区部会		塩沢区部会	
役職	氏名		氏名		氏名	
顧問	二瓶匡		上村善栄		中村進	
部会長	二瓶義徳		草野一		関根功	
副部会長	二平光信		宇佐美喜和		中村弘	
庶務	二瓶伸一		圓谷美幸		鈴木辰也	
委員	二瓶伸一	木戸久男	矢吹義孝	矢吹喜代治	鈴木紘一	曲山勝義
委員	円谷泰広	近内繁治	草野伝明	円谷和彦	中村幹雄	曲山重徳
委員	二瓶正市	二瓶将徳	矢吹重光	吉田正和	曲山国太郎	曲山永幸
委員	二瓶市之助	近内京子	円谷美佐江	永山れい子	曲山謙一	大竹隆
委員	坂本幸子	佐藤トミ子	草野伝男	相田喜市	石森勝彦	有賀正一
委員	高原裕子	近内桂子	荻野安子	矢吹寿子	添田幸子	有賀美智子
委員	瀬川洋幸		松山重一	芳賀博治	有賀幸子	近内泰一
委員			岩谷共利	佐藤晴夫	関根正明	
委員			岩谷光利			

野木沢地区まちづくり委員会開催記録

年月日	会議等内容	場所	人数
19. 7.24	区長・副区長・地区公民館長打合せ (趣旨説明・協力依頼)	野木沢地区 公民館	11
19. 8月	各区より委員推薦 (中野区16名・曲木21名・塩沢19名)		56
19. 9.21	庶務打合せ (第1回委員会内容等について)	第二保育所	4
19. 9.26	第一回委員会(地区・行政部会合同) ・第5次総合計画、まちづくり委員会について説明 ・委員会組織づくり ・現在実施中の「地域づくり事業等」取り組み状況調査依頼	野木沢地区 公民館	34
19. 10.30	第二回委員会(地区・行政部会合同) ・現在行われている「地域づくり事業等」について…各区毎に分散話し合い	塩沢農業構造 改善センター	33
19. 11.27	庶務打合せ (第3回委員会内容等について)	第二保育所	4
19. 11.29	第三回委員会(地区・行政部会合同) ・現在行われている「地域づくり事業等」について ・地域興しや産業(農業等)興し事業に結びつけるために…各区毎に分散話し合い ・「和」「話」「輪」「環」を繋ぐために…口元滑らかに懇親会	曲木 研修集会所	28
19. 12.20	庶務打合せ (第4回委員会内容等について)	第二保育所	4
19. 12.26	第四回委員会(地区・行政部会合同) 手をつなぎ明日の地域を興すために ・地域づくり事業の連携について ・地域興しや産業(農業等)興し事業	野木沢地区 公民館	18
20. 1.15	庶務打合せ (報告書まとめについて)	第二保育所	4
20. 1.24	第五回委員会(地区まちづくり委員会) 「報告書」まとめ確認 (委員長・副委員長3・委員5・顧問4・庶務4) 明日からの行動に余韻を残して…ご苦労会	丸仙食堂	15
20. 2.7	庶務打合せ (報告書まとめについて)	第二保育所	4

第1回 話し合いメモ

平成19年9月26日・野木沢地区公民館

全体会

テーマ 1 石川町第5次総合計画策定とまちづくり委員会について
……役場・企画調整課から説明……

テーマ 2 野木沢地区「地区まちづくり委員会」等組織について

ア．地区組織について

顧問(各区長・地区公民館長)上村善栄・二瓶 匡・中村 進・伊藤弘毅

委員長 瀬川 洋 幸

副委員長 二瓶義徳・草野 一・関根 功

委員 二平光信・宇佐美喜和・岩谷共利・中村 弘・関根正明

事務局長 宗形兼徳

庶務 二瓶伸一(中野)・円谷美幸(曲木)・鈴木辰也(塩沢)

イ．行政部会について

部会長・副部会長

中野 二瓶義徳・二平光信

曲木 草野 一・宇佐美喜和

塩沢 関根 功・中村 弘

テーマ 2 現在行われている「地域づくり事業等」の取組み状況調査について

各行政区毎に調査(調査結果添付)

テーマ 3 今後の進め方及びスケジュールについて(月一回程度)

10月 各部会 = 現在行われている地域づくり事業等の内容把握

11月 各部会 = 現事業の発展・課題・各事業との連携等等々

12月 各部会 = 現事業間の調整・新事業等の検討立案

1月 地区委員会 = 相互調整・報告書等の作成

テーマ 4 その他

第2回 話し合いメモ

(中野区)

平成19年10月30日・塩沢農業構造改善センター

テーマ・・・現在行われている「地域づくり事業等」について

ア、現状を知って(感じたこと・期待できるところは・どう発展してほしいか等)

- ・藤田城を素材とした地域づくりを進めたい。できれば藤田城の復元までできれば。
- ・藤田城跡整備事業については期待していた方向に行っていると思う。将来、観光名所になればと思う。
- ・スポーツ大会や新春区民の集いなど参加者が少なく、盛り上がり欠けて圓谷いる。なんとか工夫して区民の多くが参加できる形にできないかと思う。
- ・盆踊りについても年々参加者が減ってきているが、今年子供育成会とタイアップして花火を行なったが大変良かったと思う。今年のような人を集められる良い企画があればと思う。里帰りした人にも喜んでもらえると思う。
- ・盆踊りについては年々見物客が減少し、今では区民の半分ぐらいではないかと思う。盆踊りの先祖を供養するという意義をもっと区民に啓蒙する必要があると思う。
- ・子ども達や消防団員などが入り賑やかにすることができるのではないかと思うが、場所が狭いといった問題もある。せめて駅前を通行止めにもできればと思う。

イ、新しい「地域づくり事業等」について

- ・祭りを生かした地域づくりはどうか。子供育成会で御神輿をやっているが、子供とその保護者だけで盛り上がり欠けている。公民館などとタイアップして出来ないか。

ウ、野木沢地区全体的な視野からの事業又は連携等について

- ・以前野木沢駅前でイルミネーションを行なっていたが、それを復活できないかと思う。駅は野木沢地区の玄関であり、中野だけでなく曲木、塩沢とも連携した形でできればと思う。
- ・祭りについても、各行政区ごとではなく、連携して盛り上げることができないか。

エ、その他

第2回 話し合いメモ

(曲 木 区) 平成19年10月30日・塩沢農業構造改善センター

テーマ・・・現在行われている「地域づくり事業等」について

ア、現状を知って(感じたこと・期待できるところは・どう発展してほしいか等)

- ・各団体が主体性を持ってやってきたものが、和泉式部の里づくりにそれぞれの事業が絡み合ってきている。

e x、ほたるの里づくり サワガニの里づくり etc

イ、新しい「地域づくり事業等」について

- ・新たな事業を始めるのは難しい。今行っている事業を発展させればよい。

ウ、野木沢地区全体的な視野からの事業又は連携等について

- ・和泉式部の里づくり、禿山つつじ祭り、藤田城址の整備の連携をして、野木沢地区の全体的な活動としていけばよい。小和清水と禿山についてはすでに遊歩道の整備を行い連携ができつつある。
- ・母畑温泉(八幡屋)に、年間約30万人の観光客が来町する。観光客の交流事業として、盆踊り、地元野菜の販売、禿山、小和清水、藤田城址へのウォーキングコースなどの整備を行い、観光面から展開できたらよいのではないか？四季折々の花があれば魅力あるコースとなるのでは？
- ・それには、道路、駐車場、トイレ、安心して歩ける歩道等の整備が課題となる。又、維持継続していくことが大変。そのためにも、会員を増やすことが大切(各団体に依頼して)。
- ・駐車場、トイレはすでに実施することが決まっている。

エ、その他

第2回 話し合いメモ

(塩 沢 区) 平成19年10月30日・塩沢農業構造改善センター

テーマ・・・現在行われている「地域づくり事業等」について

ア、現状を知って(感じたこと・期待できるところは・どう発展してほしいか等)

- ・ 禿山のつつじ祭り、盆踊り大会、秋の収穫祭、禿山公園整備事業などを行っている。
- ・ 各事業は、それぞれの目的をもって行っているが、個人の協力、運営資金等の面で今後心配がある。又、後継者の育成、若い人の協力が今後の運営の課題となっている。
- ・ 秋の収穫祭の目的を広く理解し、もの作り(農作物)の作業形態等まで考え、機械化、省力化、共同化を進める中から遊休農地の増加を地域問題として考える必要があると思う(特に改パ一農地)。

イ、新しい「地域づくり事業等」について

- ・ 事業を行うのはよいが、将来に向け維持・継続させることが大変だ。
- ・ 現事業において負担(お金、労力等)の軽減を考える必要がある。
- ・ 現在行われている各事業について、若い人に理解が得られ、協力してもらえるよう進めるべき。

ウ、野木沢地区全体的な視野からの事業又は連携等について

- ・ つつじ祭り、禿山公園整備事業は野木沢地区の連携事業として発展させたい。

エ、その他

第3回 話し合いメモ

平成19年11月29日・曲木研修集会所

(中野区)

テーマ・・・1 . 現在行われている「地域づくり事業等」について

<p>ア．今後よりよく進めて行くために (運営資金の捻出、スタッフ・会員等の確保、継続のための条件等)</p> <p>事業を継続するためには運営資金、会員の確保が必要。 事業を住民に知ってもらうための啓蒙活動が必要だ。</p>
<p>イ．地域(野木沢地区)事業としての連携を考えて (連携の条件整備は、連携からの事業拡大、事業の効率化等)</p> <p>事業を実施してもなかなか人が集まらない状況にあるが、学校行事などには父兄をはじめ多くの人が集まっている。学校と連携し大人と子どもが参加できるような事業であれば人も集まるのではないか。(小学校運動会などを活用)</p>
<p>ウ．広域的事業への発展・新規事業を夢見て (何をどのように始めたらよいか・・・条件整備は</p>
<p>エ．その他</p>

テーマ・・・2 . 地域起こしや産業(農業等)起こし事業に結びつけるためには

<p>ア．現状からすぐに始められるものは、改良・新しく考えられる物は、 (特産物、懐かしさを感じられる物、改良や加工してできる物等)</p>
<p>イ．季節感のある物、年間通してできる物、少ない経費でできる物 (個人でもできる物・団体でやったほうがいい物等)</p>
<p>ウ．その他</p>

第3回 話し合いメモ

平成19年11月29日・曲木研修集会所

(曲木区)

テーマ・・・1．現在行われている「地域づくり事業等」について

<p>ア．今後よりよく進めて行くために (運営資金の捻出、スタッフ・会員等の確保、継続のための条件等)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 整備する所は今後あまりないと思われるが、維持管理のためには会員数の確保が大切・ 継続のための条件として、次の世代につなげる会員を増やす。各種団体を巻き込み地域(若い人も)みんなで行う。・ 会員には、会費例えば100円でも出してもらおうような方法も必要なのではないか。
<p>イ．地域(野木沢地区)事業としての連携を考えて (連携の条件整備は、連携からの事業拡大、事業の効率化等)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 現在、盆踊り、蛍の里作り、式部の里作り等々曲木地区全体としての広がりを見せつつある。曲木、塩沢、中野各地区事業を展開しているが、連携し、ウォーキングコース(禿山～小和清水～藤田城址)ができればと思う。つつじ祭り、藤祭り、紫陽花、あやめ等の四季おりおりの花もある
<p>ウ．広域的事業への発展・新規事業を夢見て (何をどのように始めたらよいか・・・条件整備は)</p> <ul style="list-style-type: none">・ ウォーキングコースをするにあたっては、遊歩道の整備が必要である。
<p>エ．その他</p>

テーマ・・・2．地域起こしや産業(農業等)起こし事業に結びつけるためには

<p>ア．現状からすぐに始められるものは、改良・新しく考えられる物は、 (特産物、懐かしさが感じられる物、改良や加工してできる物等)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地産の食べ物であったり、竹林もあるので、加工して竹細工や蛍、サワガニ等々懐かしさを感じられる物であったりなどの直売所により、利益の何%かを維持管理に回せるのではないか。・ 交流事業が盛んになれば、米やじゃが芋の販売もできるのではないか。
<p>イ．季節感のある物、年間通してできる物、少ない経費でできる物 (個人でもできる物・団体でやったほうがいい物等)</p> <ul style="list-style-type: none">・ お客さんが、何を望んでいるのか、何を作ったら良いか、考える必要がある。・ 口コミが広がり、効果が見られるのは、あそこに行けばこういう物が買えるという事が大切。そう言う事も考えると、一人二人の生産者では限界があり、みんなで作る事が大切となってくる。何を作るか？
<p>ウ．その他</p>

(塩 沢 区)

テーマ・・・1．現在行われている「地域づくり事業等」について

<p>ア．今後よりよく進めて行くために （運営資金の捻出、スタッフ・会員等の確保、継続のための条件等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている事業をもっとよく知ってもらい、若い人を含めより多くの人に参加してもらおう。参加すれば楽しいのだが、忙しい、関心が無いなど参加にいたらない人が多いので、参加しようと思うきっかけを作る必要がある。 ・事業のやり方、他の事業との統合なども視野に入れ再度見直し検討してはどうか。 ・何の集まりでも同じ人、同じ顔になってしまっている。今後の事業の継続や更なる発展をしていくためには、同じ役員ばかりではなく、新しい人にも参加してもらおう必要がある。 ・「手と手を繋ぐ輪」の広がりが必要。若者や子供達も参加できる地域全体としての集いの場を設け交流し、技術を伝承し後継者を育成していく必要がある。
<p>イ．地域(野木沢地区)事業としての連携を考えて （連携の条件整備は、連携からの事業拡大、事業の効率化等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今現在も禿山公園整備事業で、曲木地区の小和清水保存会と協働作業として連携し実施している。このようなことを今後さらに拡大していくことで、より大きく広域的に展開していければよいのではないかと。 ・つつじ祭りも各団体の協力を得て、消防団など若い人を取り込みながら連携してやっている。その他の事業についても各団体の協力なしではできない。ただ、塩沢地区全体で集まって交流できる場が少ないため何か考えなくてはいけない。（以前はスポーツ大会をしていたが、小中学生が参加しないなどの現状があり、参加人数が少ないため現在はできない状況にある。） ・各地区、各団体及び各事業において情報交換し、お互いに案を出し合うなどして協力していく必要がある。
<p>ウ．広域的事業への発展・新規事業を夢見て （何をどのように始めたらよいか・・・条件整備は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記イで記入したものと同じく、今現在も協力して事業を行っているが、今後さらに拡大していくことで、より大きく広域的なより良い事業展開ができるのではないかと。現在、小和清水と禿山は遊歩道の整備を行い連携が出来てきている。これに藤田城址との整備連携をして野木沢地区全体的な事業として展開できないかと。 ・野木沢全体はもとより、塩沢地区全体でも集まる場が少ないので、今後何か考えていかななくてはいけない。全体で集まり交流をすることで、若い人達や子供達も取り込み今ある事業を更に盛んにしていきたいし、新しいアイデアや若い力を出してもらい新事業を展開していくために、人と人との繋がり「和」「輪」「環」を広く強くしていく必要がある。
<p>エ．その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果として、事業の主催者側も参加した人も楽しくなるような事業を行いたい。

テーマ・・・ 2 . 地域興しや産業(農業等)興し事業に結びつけるためには

ア．現状からすぐに始められるものは、改良・新しく考えられる物は、
(特産物、懐かしさが感じられる物、改良や加工してできる物等)

- ・特産物を作る。鮫川村のように特産物として野菜などを作り、それを老人にも作ってもらい生きがいを見出すことで介護予防にもなる。その特産物から加工品を作り販売することで、販売所など雇用の場の拡大などへ繋がっていければ大きな事業となるのではないか。結果として遊休農地の減少にも繋がる。
- ・運営資金としては、農業を支援する目的もあるということで、中山間地の方から運営資金を捻出できないか。
- ・つつじの里の酒を「若清水酒造」で作っている。これが地元の米から作っておりおいしくて非常に評判が良い。このように地元から採れるものから名産品を作り出し大きく商品化していく。

イ．季節感のある物、年間通してできる物、少ない経費でできる物
(個人でもできる物・団体でやったほうがいい物等)

- ・地産地消ということで、集落営農で栽培した農作物を、近隣の施設や学校給食への供給等を行っていくというようなことから始めてはどうか。

ウ．その他

- ・石川町では発想良く新しいことを始めるが、すぐに止めてしまい長く続かないという傾向がある。こういったところを改善し根気強く事業を行っていく必要があるのではないか。

(全体会)

テーマ…1.手をつなぎ 明日への地域を興すために

ア. 現在行われている「地域づくり事業等」の連携について

- ・ 藤田城については、以前は21世紀の会で事業を行ってきたが、今は、藤田城保存会という形で30名ほどで行っている。(草刈り等) 実際の作業は15名ほどで年間3~4回遊歩道の整備などの作業を行っており、来年は立て看板の設置を予定している。
- ・ 3地区独自にやっても壁にぶつかるのではないかと。現在は和泉式部(小和清水)と禿山つつじ祭りで遊歩道の整備など連携して行っている。ただ、事業としてはそれぞれ独自に行っている現状で、ここに藤田城を含めて一体的なものとして野木沢の史跡を結び史跡めぐりというような形で進めてはどうか。
- ・ 藤田城の着手は早かったが、整備がなかなか進まなかったため、他と連携できるような状態にはなっておらず進められなかった。今後は連携した目標を持って進めていきたい。
- ・ 3地区での連絡協議会等を立ち上げ、検討してみたら良いのではないかと。
- ・ 小和清水は藤祭り、禿山はつつじ祭り、藤田城は・・・といった形でそれぞれの時期に合わせて目的地まで歩くイベントを行うなどして連携して行ったらどうか。距離は2kmぐらいで歩くのにはちょうど良い距離になるのではないかと。(例えばつつじ祭りの時、遊歩道を使って小和清水、藤田城との連携も図れるように。)
- ・ 石川というと、桜、石、自由民権運動だが、観光の目玉となるようなものがない。連携をとり目玉となるようなものを作ろう。
- ・ 藤田城だけでは難しい。歴史マップをつくり回って歩けるようにすればよいのではないかと。近年の健康志向ブームも考え、歩く事での健康づくりからもPRできる。
- ・ 駅に共同の看板を設置するだけでも大きなことではないかと。また、マップを置くなどして、野木沢駅の活用と合わせて事業の展開はできないかと。

イ. 地域興しや産業(農業等)興し事業に結びつけるためには

- ・ 団塊の世代が退職し、もらえる年金だけで暮らしていくには厳しい時代になってきた。米については1俵1万円を割ってきており採算が合わなくなっている。その上、集落自体が無くなってきている状況で、良い集落を作っていく手立てを考えていかないと個人がダメになる。結果として町がダメになってしまうのではないかと。
- ・ 野木沢の全体面積の約43%が農地で、林野より割合が多い状況である。現在はこの開パの畑地や転作農地のなかで遊休地が増え荒廃してしまっている状況。この遊休地の利用が大きな課題のひとつではないかと。野木沢駅があり118号線が通っているため、その土地の利を生かしたような事業の展開ができないかと。
- ・ 小和清水、禿山、藤田城の事業を工夫し、例えば八幡屋に来るお客さんに回ってもらうことで、観光とあわせ農産物等売る事もできるのではないかと。(人が集まるようにすることが一番。せっかく多くの人々が母畑温泉に泊まりに来ているのだから、この人たちを野木沢を経由してもらえるような方法を考えていけばいいのではないかと。3つの事業が連携すれば人が呼べるようになるのではないかと。人が集まれば、農産物も売れるし、道の駅などにも繋がっていくのではないかと。)
- ・ 後継者問題! 集落がなくなる・・・心配されているが若い人が喜んで残ってくれる事業や地域づく

りができたら。

- ・ 中山間など入金を効率的に利用して農業関係の復興を行っていかないといけないのではないか。福島でも100の集落がなくなってきている。そして将来の塩沢の団地のゴースト化が心配である。今後何らかの事業の推進をしていかないと危険である。
- ・ 後継者がいない状況である。スポーツ大会にも人が集まらない状況で非常に厳しい。
- ・ 米は作っているが、義理で作っているような状況。田を所有して荒らせないため、仕方なく作っている。勤めながら稼いだ金を農業につぎ込んでいるような形が今の現状である。
- ・ 生産者と消費者が直接売買する仕組みづくりをすれば売る方も買う方も特である。例えば、都会の消費者に生産者の顔が見え、安心して喜んでもらえるおいしい米・野菜等を販売するルートづくりなどの仕組みを作っていかなければいけない。
- ・ 平成19年8月11日の民報新聞に国土交通省が、2008年「史跡を生かしてまちづくり推進」～城郭復元などで総合支援～という補助事業の記事が出ていた。このような事業を利用して藤田城の復元を考えられないか。これは個人でどうこうというのではなく、町で対応する必要があるので調査検討をお願いしたい。
- ・ 町職員等から補助金制度を積極的に紹介してもらい、事業の企画や実施に活用することが大切。

ウ.その他

- ・ スポーツ大会だが、人が集まる競技種目がなく人が集まらない。現在はソフトボールやバレーボールをやっているが、参加人数が少なく行き詰っている状況。何か良い種目はないか知恵を借りたい。ソフトボールは、学生もチームで何人まで参加OKという形でやっているが、学生自体が少ない状況。
- ・ スポーツと限定するから難しいのではないかと？スポーツにこだわらずみんなが気楽にできるようなものを考えてはどうか。例えば下駄飛ばし、さくらんぼの種飛ばしやフットベースボールなど。
- ・ 毎回同じ種目で段取りがわかっているため、時間が短縮されてすぐに終わってしまうという部分もある。スポーツ大会が終わった後の懇親会は全体で一箇所に集まり楽しくやっている。
- ・ なんととっても道路だと思う

(全体会)

テーマ…1. 報告書「これまでの調査、話し合いのまとめ」について

<p>① 内容修正箇所について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 誤字の訂正依頼のみ
<p>② 追加が必要な事項について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 野木沢駅環境整備協力会として長寿会と3地区から3名（区長・副区長・前区長）ずつの計15名ほどで駅周辺の草刈や駅構内の清掃などの美化活動を行っている。年4回ほどの活動で町からも3万円の助成を受けている。このことについて、内容の追加をお願いしたい。
<p>③ 添付が必要な資料等</p> <ul style="list-style-type: none">・ 案内マップのようなものを作成しようと考えたが、ただ地図に名所などを入れるだけではつまらないものになってしまう。大きく絵を入れて禿山や小和清水、藤田城を結ぶロードマップのような形に作るのが理想だが、作成のための技術が必要で簡単には作成できないため、今回資料としての添付は見合わせたい。
<p>④ その他</p> <ul style="list-style-type: none">・ 今回この報告書を作成して終了ということではなくて、せっかくこのような形が出来たのだから、今後は実現に向けて進めることが大切。次年度から関係者が連絡調整を図りながら具体的な取組みを進めて行ってはどうか。

以上を踏まえて再度事務局で報告書を見直し、町への提出用として作成し、委員長に確認いただいてから町へ報告いたします。

参 考 资 料

現在行なわれている『地域づくり事業等』の取組状況

19.10.30

中野行政区

No.	事業名	事業主体又は団体名	活動内容	活動時期	活動資金
		代表者氏名		会員数又は参加数	
1	藤田城跡整備事業	藤田城址保存会	<p>目的 地域の歴史や伝統文化を醸しだした地域独自のまちづくり運動を展開するため、核となる素材を整備して地域作り運動の拠点づくりを行うほか、地域住民への啓蒙と意識の高揚を図ることを目的とする。</p> <p>主な事業内容等 藤田城本丸跡への遊歩道整備、案内板の作成及び設置</p>	会員30名	町補助金 185,000円
		二瓶義徳			区助成 92,500円
					合計 277,500円
2	早苗ぶりスポーツ大会	中野区 中野公民館	<p>目的 スポーツを通して地区民相互の親睦を深め、融和の精神づくりと体力の向上に寄与する。</p> <p>主な事業内容等 ソフトボール・家庭バレーボール等</p>	5月下旬	
		二瓶 匡 近内繁治		参加者150名	
3	新春区民の集い	中野公民館	<p>目的 地域の方々が一同に会し新年を祝い、地区民の親睦をより深める。</p> <p>主な事業内容等 中野区各種団体長顔合わせ・懇親会</p>	1月中旬	
		近内繁治		参加者30名	
4	盆踊り	櫓保存会		8月	
5	子ども祭り	中野子供育成会		9月	
6	中野区民ボウリング大会	中野公民館	<p>目的 地区民の運動不足を解消し、地区民相互の親睦を図る。</p> <p>主な事業内容 ボウリング大会</p>	2月下旬	
		近内繁治		参加者30名	

現在行われている『地域づくり事業等』の取組状況調査票

曲木行政区

NO	事業名	事業主体又は団体名	活 動 内 容	活 動 資 金
		代 表 者 氏 名		及 び 金 額
1	和泉式部の里づくり	和泉式部の里づくり 実行委員会	目的 小和清水・和泉式部を主体とした地域づくり、町づくりの推進。 主な事業内容等 ・イベント交流事業・・・花見会、収穫祭等 ・環境保全活動・・・ほたるの里づくり ・芸術文化活動・・・写真展 ・浪漫街道回遊交流事業・・・いわれの地調査整備 ・小和清水整備作業・・・草刈、花苗植	1. 国県補助金
		矢 吹 義 孝		2. 町補助金 250,000円
		活 動 時 期		3. 区助成
		会員数又は参加数		50,000円
		年 間 会 員 45名		4. 会費
		5. その他		
2	中山間地域等直接支払 (曲木集落)	中山間地等直接支払 (曲木集落)	目的 耕作放棄地の発生防止・効率的な農業生産活動の推進・多面的機能の確保 主な事業内容等 ・農道、水路等の整備 ・農地、農道、水路等の維持・管理 ・安全、安心な農作物づくりと生産効率の向上 ・自然生態系の保全と環境学習 ・地域との連携	1. 国県補助金
		草 野 一		2. 町補助金 1. 2合せて 1,972,000円
		活 動 時 期		3. 区助成
		会員数又は参加数		4. 会費
		年 間 会 員 86名 内訳 農業者76名 非 " 10名		5. その他

現在行われている『地域づくり事業等』の取組状況調査票

曲 木 行政 区

NO	事業名	事業主体又は団体名	活 動 内 容	活 動 資 金
		代 表 者 氏 名		及 び 金 額
3	曲木 豊年盆踊り	曲木櫓保存会	目的 ・地域の伝統盆踊りの継承、 ・地元住民と帰省者との交流 主な事業内容等 ・豊年盆踊り大会……仮装懸賞付き ・笛・太鼓・正調盆踊りの伝承(練習) ・櫓等の設備及び備品の整備	1. 国県補助金
		円谷和司		2. 町補助金
		活 動 時 期		3. 区助成
		会員数又は参加数		4. 会費
		7月25日～8月16日		5. その他
		会員 30名		中山間地より 20,000円

現在行なわれている『地域づくり事業等』の取組状況

19. 10. 30 塩 沢 行 政 区

No.	事業名	事業主体又は団体名	活動内容	活動時期	活動資金
		代表者氏名		会員数又は参加数	
1	禿山つつじ祭り	禿山つつじ祭り実行委員会	目的 禿山つつじ祭りをとおして塩沢区民の親睦と地域の活性化を図る	5月1日～15日頃	1. 国県補助金 2. 町補助金 3. 区助成 4. 会費 5. その他
		鈴木 紘一	主な事業内容等 1. つつじの咲く頃(5月中旬)、会員及び一般参加による花見会 2. つつじの病虫害消毒	会 員 24名 参加者約200人	
2	塩沢盆踊り大会	塩沢盆踊り有志会	目的 盆踊り大会を実施し、塩沢区民の親睦と地域の活性化を図り、盆踊りの笛・太鼓・はやし等の技法を継承し、その伝統を保つ。	毎年8月中旬	1. 県補助金 2. 補助金 3. 区助成 4. 会費 5. その他
		大竹 隆	主な事業内容等 1. 毎年1回の盆踊り大会の実施 2. 盆踊りの伝統を継承できる後継者の育成(太鼓・笛等の練習)	会 員 28名 参加者600名	
3	秋の収穫祭	塩沢集落営農組合	目的 塩沢集落営農組合の活動の一環として、地産地消を目標に安心・安全な地元の生産物を提供し、地域の住民との融和を図る。	11月第1日曜日	1. 県補助金 2. 町補助金 3. 助成 4. 会費 5. その他
		中村 幹雄	主な事業内容等 1. 地元で生産した野菜、果物等の販売会 2. 地元栽培の新そばによる、そば打ち及び試食会 3. 地元新米の餅つき、販売	会 員 58名 参加者300名	
4	禿山公園の再生、整備事業	塩沢区・禿山つつじ祭り実行委員会・財産組合	目的 禿山公園の再生と整備をはかる。	毎年8月中旬	1. 金 2. 町補助金 3. 区助成 4. 会費 5. その他
		区長、委員長	主な事業内容 1. 禿山公園の遊歩道としての機能整備を実施。(下刈り、階段の設置、枯れ木の伐採除去作業) 2. 水芭蕉・りゅうきん花の移植 ※地域づくり事業として、曲木地区の小和清水保存会と協働作業として実施している。	会 員 40名 参加者 40名	